第4学年1組　国語科学習指導案

**１　単元名・教材名**　季節の言葉　冬の風景

**２　本時の学習指導**（本時1/2時）

（１）目標

　〇冬の風景について自分の身の回りから想像を膨らませ表現しようとしている。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（関心・意欲・態度）

（２）評価規準

|  |
| --- |
| ア　国語への関心・意欲・態度 |
| 1. 冬の風景について自分の身の回りから想像を膨らませ表現しようとしている。 |

（３）展開(〇は指導上の留意点)

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学習活動 | 学習内容 | 指導と評価の創意工夫 | 時間 |
| １　前時の学習を振り返る。  ２　本時のめあてを確認する。  冬の言葉を使って詩をつくろう  ３　冬を想起させる言葉にはどのようなものがあるか話し合う。  ４　考えた冬の言葉から詩をつくってみる。  ５　作った詩を発表する。  ６　学習を振り返り、詩の楽しさを感じる。 | ・前時に行った内容  ・本時のめあて  ・冬を想起させる言葉  ・学習の振り返り | 〇前時に行った詩の内容を確認することで、もう一度言葉の面白さを伝え、詩をつくる上で児童の意欲につなげる。  〇冬には何があるのか問いかけることで、児童が身の回りにあるものから冬を想像できるようにする。  〇学習の課題を提示し、ねらいを明確にする。  〇冬を想起させる言葉をそれぞれ考え、ノートに書きだすことで頭の中にあるイメージや言葉を表現できるようにする。  〇冬のイメージが浮かばない様子の児童には教師が個別に声をかけ冬の経験を聞くことで、全員が冬のイメージを持てるようにする。  〇グループを作り、周りの人と話し合う時間を設け、出た意見を黒板にまとめる。  〇あがった言葉から擬音語や擬態語を想像させることで、児童の想像が膨らむようにする。  〇リズムや言葉の面白さを共有するためにグループで紹介し合い、共通認識を持てるようにする。  〇前時で取り上げた「詩を楽しもう」で読んだものがどんな詩だったか確認することで、詩の良さを確認する。  〇前回読んだ詩のように自分の思う通りに表現してよいことを伝える。  〇机間指導を行いながら、詩をつくることに意欲的に取り組んでいるか確認する。  〇自分の考えを表現し、また友達の考えに触れることで、思考を深めようとしているか確認する。  〇なかなか書くことができない児童には、前回の詩を参考にして書いてもよいことを伝え、詩を書く楽しさを感じられるようにする。  場合によっては教師が一緒に考える。  〇冬の言葉は何個入れてもよいが、自分の思ったことを表現することが最も大切であることを伝える。  ア①冬の風景について自分の身の回りから想像を膨らませ表現しようとしている。  《手立て》  詩ができている児童には、褒めたり、みんなの前で発表したりすることで、より意欲を高める。  また、できていない児童には、教師が声をかけながら一緒に考えることで、冬のイメージが広がるようにする。  〇発表した児童の詩を認めることで児童の意欲につなげる。 | 3’  15’  17’  10’ |

〈予想される児童の反応〉

・どのように書けばよいのか

・どのくらい書けばよいのか

・冬の言葉は何個入れればよいのか

|  |  |
| --- | --- |
| 次時の学習内容 | 熟語の意味について |

**板書計画**

みんながイメージする冬の言葉

詩の楽しさって何だろう

冬の言葉を使って詩をつくろう

**３備考**　在籍児童数　35名